



いつまでもお元気で

宮本 卯平治さん 100 歳のお誕生日

みやもと うへいじ
宮本卯平治さん（鷹島・阿翁浦）が1月18日、100歳の誕生日を迎えました。

宮本さんは、大正8年鷹島町の漁家に6人兄妹の長男として生まれました。戦時中は戦地に赴き、その後は家業の漁業を継いで、ハマチやタイなどの養殖事業を始めました。鷹島地域におけるフグ養殖事業の基盤を築かれ、80代前半まで漁師として家業に励まれました。

平成27年から特別養護老人ホーム「玄海園」に入所されており、家族の面会を楽しみにのんびりと過ごされています。誕生日当日、家族らからお祝いの言葉や花束を受け取り、嬉しそうな表情を浮かべていました。



いつまでもお元気で

小船 フミエさん 100 歳のお誕生日

こぶね
小船フミエさん（御厨・中野）が2月6日、100歳の誕生日を迎えました。

小船さんは、大正8年久留米市に5人姉弟の長女として生まれ、20歳頃に結婚し、二男一女に恵まれました。若い頃はユニチカで働いたほか、リヤカーで野菜の移動販売を行うなど、さまざまな仕事を経験されたそうです。

現在でも庭の草むしりをされており、自分の役割を持ち、果たすことが長寿の秘訣と話されました。それ以外にも介護老人保健施設「よかところ」のデイケアでレクリエーションや手工芸などをして過ごされています。

この日、自宅で家族らとともに長寿を祝いました。



いつまでもお元気で

渡口 イチさん 100 歳のお誕生日

わたりぐち
渡口イチさん（今福・北東2）が昨年12月12日、100歳の誕生日を迎えました。

渡口さんは、大正7年鷹島町に7人姉弟の長女として生まれ、早くにご主人を亡くされてからは農地を守り、縫製の内職をしながら8人の子どもたちを育てあげました。

自宅では、花を育てたり、大正琴などに親しまれていました。平成24年に「グループホームたけべ」に入所されてからも身の回りのことだけでなく、施設のお手伝いなどを積極的に行い、元気に過ごされています。

渡口さんは、家族や施設のスタッフからのこれまでの感謝の気持ちを込めたお祝いに笑顔を見せていました。



掲載が遅れましたことお詫び申し上げます。

いつまでもお元気で

浦田 ヤス子さん 100 歳のお誕生日

うらた
浦田ヤス子さん（御厨・川内）が1月23日、100歳の誕生日を迎えました。

浦田さんは、大正8年福岡県生まれ。穏やかで優しく、慎ましい性格で、若い頃は和裁の職に就いていました。

結婚して早くにご主人を亡くされましたが、家族の暮らしを支えながら、40年近く毎日日記をつけられ、充実した日々を送られたそうです。

現在は田中病院に入院されており、昼間は童謡や演歌などを聴いて過ごされています。

この日、家族らから温かい祝福を受け、お祝いのケーキの美味しさに感激されていました。



新春の福島路を駆け抜ける

福島町一周駅伝大会

福島町一周駅伝大会が1月13日に行われ、8区間23.97kmで健脚を競いました。

この大会は、昭和30年1月に第1回大会が開催されて以降、今回で65回を数える長崎県内の市町村単位で開催される駅伝大会の中では、最も歴史のある大会です。

今回、市内外から18チームが参加し、福島港ふれあい広場前をスタートし、沿道の声援を受けながらたすきをつなぎました。上位の結果は、次のとおりです。

【町内地区】

【オープン】

- | | |
|---------------------|------------|
| ①鍋串 1時間33分17秒 (4連覇) | ①有田工業高校駅伝部 |
| ②日の浦 1時間33分59秒 | ②松浦消防 |
| ③伊賀A 1時間39分07秒 | ③九州電力唐津 |



女性活躍推進企業大賞受賞

株式会社エミネントスラックス

株式会社エミネントスラックス（前田周二代表取締役社長）が1月24日、第4回ながさき女性活躍推進企業等表彰において大賞を受賞しました。

この賞は、女性の雇用・登用拡大や能力開発等に積極的に取り組む企業等を県が表彰するものです。

縫製業は機械に頼れない部分も多く、人の手や技術力が品質の持続化に欠かせません。同社は、女性社員が約9割を占めています。男女ともに働きやすい職場環境づくりを推進しており、子育てサポート企業の証である「くるみん」認定も受けています。前田社長は、「今後も仕事と育児・介護など誰もが働きやすい職場環境を目指し、社員、家族の幸せに貢献していきたい」と話されました。

写真左から社員の江田さん、鶴さん▶



写真左から社員の江田さん、鶴さん▶

古典芸能『落語』『曲芸』に触れる

古典芸能鑑賞

松浦市文化会館主催による文化事業の一環として、質の高い芸術、文化に触れることを目的に、1月15日、上志佐小学校と今福小学校で落語と曲芸が演じられました。

音楽室や体育館のステージが寄席の舞台に変わり、子どもたちは、いつもと違った雰囲気の中で落語家笑福亭たまさんと曲芸師豊来家板里さんによる古典芸能の世界を体験しました。独特の間とテンポよい語り口から繰り出される噺、傘まわしやバランス芸など、お二人の「技」の迫力に引き込まれ、会場は笑い声に包まれました。



正しく知り違いを認めあう

韓国青年訪日団の交流・文化体験

外務省の平成30年度対日理解促進交流プログラム（JENESYS2018）の一環として、韓国全土から選抜された大学生・高校生等約60人から成る韓国青年訪日団が、1月19日～21日までの期間、上志佐地区と田代地区での民泊やいもち作りなどを通して松浦の暮らしを体験しました。

訪日団は、今回「地域の伝統文化探求と魅力発信」をテーマに、自らの理解を深め、体験や交流の様子を発信し、日韓の相互理解の促進を図ります。

高校生たちは、文化や感覚の違い、言葉の壁を乗り越えて、簡単な英語や身ぶり手ぶり、表情を見ながら積極的にコミュニケーションを取って、地域の人と交流を深めていました。

